

# ふるさとへぐり再発見

## 平群で出土の弥生土器

4



今まで三回にわたって弥生時代のことを書いてきましたが、当時使用された土器はどのような物だったのでしょうか。

弥生土器は、壺・甕・鉢・高坏等、色々な種類がありますが、時期により形や文様が変わります。

この変化をもとに、研究し、土器の時期区分を整理したものが「土器編年表」と呼ばれるものです。

現在では数十年単位での細分が進められています。

弥生土器は釉薬をかけない素焼き土器で、焼成は窯を用いず野焼きによっています。赤い酸化鉄で焼かれており、焼成温度は八百から九百度であり高くありません。

また、ロクロは使用されず、土器の成形や文様をつけるときは回転台を用いました。回転台のかわりに木の葉を使用し、土器の底に葉脈の残る例もあります。

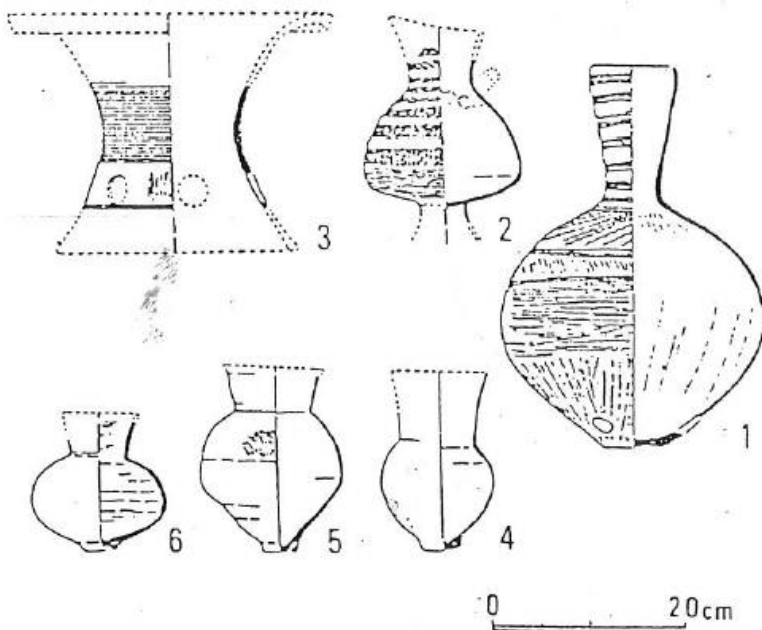
それでは、平群町出土の弥生出土器をみてみましょう。

1は、下蔵遺跡(南小学校付近)の細首壺です。何を保存したのでしょうか。

2は、榎原東遺跡の水差形土器で、野簾のような簾状文で飾られ、名前のとおり水や酒を注

いだのでしょうか。この二例は中期のもので

平群町出土の弥生土器



3から6は、廿日山遺跡で出土したものです。3は器台で、外面には凹線文と呼ばれる文様があり、壺を乗せる台で、中期後半頃のもので、4は長頸壺、5・6は壺で、ともに後期のものです。

土器は地域や時代により特色があるので、博物館に行かれた時など比較してみてください。